

管内の百名山「那須岳」



うぼがだいら
姥ヶ平より茶臼岳を望む



剣が峰から望む茶臼岳

那須岳は栃木県北部に位置する那須連山の総称ですが、その主峰である茶臼岳の意味でも使われています。

茶臼岳は、日本百名山にも数えられる標高1,915㍍の活火山です。今でも「茶臼の釜」と呼ばれる噴火口から蒸気と火山ガスを盛んに噴出していて、遠方からでも白い噴煙が上がっているのが観察できます。

国有林では、この茶臼岳を中心とした地域をレクリエーションの森「茶臼岳自然観察教育林」に指定しています。標高の高いところではハイマツ、シャクナゲ、ガンコウランなどの高山系の植物が生育しており、山麓には樹齢100年を超えるコマツガ、ネズコ、ダケカンバ、那須五葉松などが見られます。特に秋の紅葉時期には、茶臼岳の裾野に広がる「姥ヶ平」周辺の山一面が赤や黄色に彩られとても美しい様相を呈し一見の価値が有ります。

茶臼岳へは、登山口である「峠の茶屋」（標高約1,400㍍）まで車で行けるほか、「那須ロープウェイ」により山頂付近（標高約1,700㍍）まで行けることから、一般の方でも気軽に山頂まで訪れることができます。

また、茶臼岳周辺には多くの登山道がありますが、地元山岳会や自治体などにより案内板等が整備されており、春の新緑から秋の紅葉シーズンの間、登山者で賑わいを見せます。

ただ残念なのは、気軽に登れるためゴミのポイ捨てなどの問題や、ペット連れの方が増えたことによるトラブルも増えています。

こうした状況を踏まえ、塩那森林管理署では地元の方々の協力や、森林保護員による那須岳一帯のパトロールを行い、訪れる方々が気持ちよく登山できるよう、登山者のマナー向上への呼びかけ等を行っています。



那須ロープウェイから茶臼岳を望む



茶臼岳の紅葉とひょうたん池